



発行所
札幌聖心女子学院
札幌市中央区宮の森2条16丁目10-1
TEL (011) 611-9231

始業から二ヶ月となり、新入生も学校に慣れ、「聖心は一つの大きな家族」を実感しているところです。

今年四月末から五月下旬まで、エゾヤマザクラやソメイヨシノ、八重桜など様々な種類の桜が、約一ヶ月の間に、それぞれが時を得て順に咲き誇り、校庭を彩ってくれました。爽やかな青空のもと、雀のさえずりや、キジバト特有の鳴き声の中、深緑の木々の間を生徒たちが登校してきます。

放課後、満開の八重桜の下で、世界人權宣言七十周年記念キャンペーンに参加しようと世界の姉妹校に呼びかける生徒たちが、自分たちも国連のウェブサイトに条文を読み上げて動画をアップしようと、撮影をしている姿が見られました。

七月上旬には聖ソフィア祭(学校祭)が催されます。節目の五十周年を過ぎて入学した生徒たちは、「半世紀もの長い年月を重ねて先輩たちが作り上げてきた伝統を受け継ぎ、さらに未来へ飛び立つことができるように」という願いを、これまで先輩たちが作り上げてきた翼と、これから自分たちが作っていくもう一枚

の翼に込めて、テーマを「WINGS」としました。鳥は無数の羽が集まってできた翼があるからこそ大空を飛べるように、全校生徒が力を結集してこそ聖ソフィア祭を創り上げることができると知った生徒たちは、その想いを「WINGS」というテーマの中に表現し、創立当時の総長マザー・デュ・バロンが宮の森の丘で残された言葉「ここは世界

に開かれた窓」から羽ばたこうとします。

今年度は学校教育目標のテーマを、
Action for Peace、「平和を願った創立者を想い、気づきとふりかえりのうちに、ささやかであっても、神との間に、人々との間に、自然との間に、自分自身の中に平和をもたらす行動を選び取っていく」としました。生徒たちが、様々な選

択肢の中で、聖心の教育が大切にしてい

"Action for Peace"

平和をもたらす行動を選びとる

校長 阿部 益太郎

力のある生徒が確実に育っています。

高校一年のときのニューヨーク国連研修でシリア難民について学び、子どもたちが教育を十分に受けられないことを知った生徒の一人は、アクションプランとして聖ソフィア祭などの機会に友人と一緒に手作りのクッキーを販売し、その売り上げを難民のために寄付する活動に取り組んでいます。四月にアメリカがイギリス、フランスと共同でシリア空爆に踏み切った際に、全国紙の新聞社から取材を受けた彼女は「武力行使は平和にはつながらない」、「平和のためには対話や交渉が必要だ」と、本校での学びから得た自分の考えを自分の言葉で力強く話してくれました。

対話のためには自分の側だけでなく、相手の側に身を置こうとする姿勢が必要だ。先日、二百年前にレベッカ号で、ふるさとフランスから大西洋を越えて開拓地アメリカに渡った聖フィリピン・デュシエンについて、シスタードナ・コリンズが話してくださいました。その折、「あなた方は、聖フィリピンのように、よりよい世界の実現のために自分のいる快適な場所から離れる意思がありますか」と問われました。平和の実現のために、想像力をもって相手の側に身を置いて耳を傾け、対話することは、故郷を離れて大西洋を渡ることと同じぐらい大きなことなのだと思感し、あらためて、Action for Peace を実行する恵みを聖フィリピン・デュシエンに願う毎日です。

中一・高一

入学式・オリエンテーション

成長の準備

入学式を終えて、私は晴れて中学生になりました。はじめはとても緊張していた上、小学校までの友人とも離れたため、不安でした。しかし、クラスメイトは話しかけやすい雰囲気から笑顔がこぼれていて、すぐに馴染むことができました。

私たち高校一年生は、四月十日(火)に入学式を迎えました。ソフィア・サイエンスクラス、グローバルクラスにそれぞれ四名の新入生が加わり総勢三十名となりました。式では校長先生や神父様のお話を伺いながら、いよいよ高校生になったのだと心から実感しました。そして今まで支えてくれた両親にも感謝しなければと思いました。

次の日に行われたオリエンテーションでは、たくさんの先生が話をしてくださいました。中学生とは異なる点が多くあり、義務教育が終わった今、全ては自分の責任になることを強く実感させられました。忙しくなる高校生活の中でやらなければならないことに、一つひとつ

中学生になり、教科書の量が増え、上級生との関わりもでき、大人になる自覚が芽生えたと共に、まだまだ未熟であると感じました。このような大人と子供の間を揺れ動く葛藤の中に本当の成長があると思います。

今はまだ慣れないこともあり、小さな悩みに翻弄させられることもあります。ですが、一步一步自分を成長させ、将来大いに活躍するために、これからの生活を仲間と共に、切磋琢磨しながら過ごしていきたいと思えます。(中一 照沼 乙香)



丁寧に取り組んでいきたいと思えます。又、高校生から参加が可能な様々な研修を経験し、それらを活かした、充実した学校生活を送れるように頑張りたいと思います。

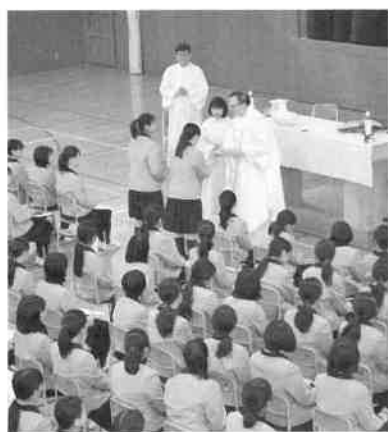
(高一 津山 素梨)

結集

新年度を迎えて

四月十八日(水)、新年度の始まりにあたり、円山教会のケン・スレイマン神父様の司式で始業ミサを行いました。

新年度の始まりに、シスター方、先生方、そして四月に入学した新たな仲間と共に、全校生徒が心を合わせてお祈りしました。共同祈願では、各学年の代表者が「学年の絆を深める」「勉学に励む」等、抱負を述べていたのが印象的だったと同時に、一つ学年が上がったことに身が引き締まる思いでした。今年度も、様々な経験から多くのことを吸収し、学びを深めていけるよう、一日を大切に過ごしていきたいと思えます。気持ちを切り換えて新年度をスタートできたことに感謝致します。(高三 森川 祐羽)



English Camp



英語を身近に感じる

私たち中学一年ソフィア・サイエンスクラスは五月十日(木)・十一日(金)にイングリッシュキャンプに行つて参りました。

中学初めての宿泊学習で最初は緊張していましたが、英語で歌を歌ったり、ダンスをしたりと楽しく指導していただいたので、すぐに緊張もほぐれ、リラックスして過ごすことができました。

様々な活動の中で私が一番心に残ったのは、英語の手話を行ったことです。歌を歌いながらアルファベットと単語の手話を習いました。英語が理解できていないと手話もできないので、英語の勉強をがんばり、英語の手話もできるようにになりたいと思います。また友達と一緒に過ごした時間も良い思い出です。今回の経験を通じて英語を身近に感じるようになりました。

(中一 山本 桃香)

Welcome to 聖心



今年度新たにお迎えした九名の教職員の方々をご紹介します。

- ①名前
- ②教科
- ③自己紹介、コメント

①梅原 宏之
 ②理科(地学)
 ③三十六年間、道内公立高校に勤務し、四月から札幌聖心に赴任しました。十一年ぶりの教壇です。理科が苦手な生徒が多いかもしれませんが、しっかりとついてきて下さい。通常の授業に加えての、課題研究や国際交流。忙しいとは思いますが、将来必要になるものばかりです。



①山際 令
 ②養護教諭
 ③教室からいつも楽しそうな声が聞こえてきて、明るく元気なみなさん。研修に自ら参加し、英語や研究に力を入れている姿もたくさん見られ、素晴らしいと思います。何をやるにも健康が第一だと思えますので、十分な栄養と睡眠を心がけて充実した学校生活を送って下さい。応援しています。



今年度新たにお迎えした九名の教職員の方々をご紹介します。

①齊藤祐利子
 ②国語
 ③札幌大谷高等学校から参りました。担当は国語ですが、高校生のときの得意教科は音楽でした。趣味は楽器を演奏することで、週末には市民オーケストラでコントラバスを弾いています。新しい環境に戸惑うこともありますが、皆さんと共に成長していきたいです。



①西澤 芙衣
 ②数学
 ③素直で明るく、活発な皆さんに逢えたことをとても嬉しく思います。数学の授業が少しでも「数楽」となるように、一つひとつの授業を大切にしたいと思っています。授業以外の場合でも沢山の時間を共有したいと思っていますので、どうぞよろしくお話し致します。



①眞島 勝彦
 ②宗教
 ③私はカトリックの伝道師で学校心理士です。高一・二年の宗教を担当します。シスターや教職員の下でのびのび素直に成長しているみなさんが、根っこを掘り下げる手助けをしたいと思います。よろしくお話し致します。



今年度新たにお迎えした九名の教職員をご紹介します。

①柳澤 伸壽
 ②理科
 ③海をこよなく愛する六十歳！風を受けるを切るバイク(戌年)、風を受けるヨット(魚座)大好き人間です。「人間知っていることより、知らないことの方が多い。だから学びたい。」を信条にしています。



①鈴木 恭子
 ②英語
 ③この度、SGHスタッフとして、また英語科の講師としてお世話になることになりました。皆さんといういろいろな場面でお話できるのを楽しみにしています。どうぞよろしくお話し致します。



①扇子 千草
 ②家庭科
 ③家庭科は、人生をデザインする教科だと言われています。明るく元気な皆さんのパワーをもらいながら、人生について共に楽しく授業を進めていきたいと思っています。どうぞ宜しくお話し致します。



①大澤 夏子
 ②事務室
 ③皆さんこんにちは。札幌聖心で働くことができて、とても嬉しく思っています。どうぞ宜しくお話し致します。



タイ・ナワミン校との交流

互いの文化に触れて

五月八日(水)～十一日(土)まで本校で過ごしたタイのナワミン校生との交流会が十日(木)に催されました。ナワミン校の生徒はきらびやかなタイの伝統衣装に身を包み、タイの伝統舞踊と「雨ニモ負ケズ」の暗唱を披露してくださいました。流暢な日本語を話す姿に深い感銘を受けました。

札幌聖心からは箏曲の演奏と日本舞踊、よさこいソーラン踊りを披露しました。また、本校からはナワミン校の先生方に法被を贈呈しました。色鮮やかな法被を着たナワミン校の校長先生の姿がとても印象に残っています。

今回の交流会は両校の生徒にとっても実りあるものとなりました。これからもこの交流を大切にしていきたいです。(高二 三村 祐木)



SGHNY 国連研修

人との共生を考えて

私たち十名は昨年度の二月十二日(月)～十九日(月)までSGHニューヨーク国連研修に参加して参りました。私たちは数ヶ月前から事前研修を行い、知識を深めてから研修に臨みました。様々な方からお話を聴いた中でも特に印象に残っているのは、国連日本政府代表部の岸守参事官のお話です。岸守氏が緒方貞子さんと共に仕事をした際、緒方さんが「本当の難民問題の解決はパン屋がもう一度パンを焼けるようにするということだ」とおっしゃっていたと教えてくださいました。

今回の研修を通して私は、人との共生を実現するために日本はもっと移民や難民を受け入れていくべきだと考えるようになりました。

(高二 木村 果鈴)

中ニグローバルクラス
NZ研修

貴重な経験

私たち六名は、三月十七日(土)～四月六日(金)までニュージーランド研修に行っていました。

ニュージーランドの Sacred Heart Girls' Collegeに通いました。研修校では、現地の先生からニュージーランドについて詳しく学ぶことができました。

また、私たちのホストファミリーを引き受けて下さった方々もとても優しく、日本と違う文化に私たちが戸惑っている時も支えてくれました。

私は初めて母国語が通じない国に行ったので最初は言葉が伝わるか不安でしたが、言葉は拙くとも伝えようとすることが大事だということを感じました。この経験を糧に、

今後も様々な研修に参加していきたいです。

(高一 富永 有奏)



NZ姉妹校短期留学

多国籍国家を実感



私たち二名は、三月十日(土)～四月一日(日)までの二十三日間、ニュージーランドへ行って参りました。留学中は、姉妹校であるバラ

ディーンカレッジに通い、授業を受けました。

最も印象的だったのは日本語の授業でした。クラス自体は少人数でしたが、一人ひとりが積極的に発言して楽しく日本語を学んでいました。クラスメイトには韓国人や中国人も居り、多国籍国家であるニュージーランドならではの光景だと思いました。

そして二年前に札幌聖心女子学院に短期留学で来ていた生徒とも話すことができました。彼女は日本語の学習を続けていて「日本にまた行きたい」と言ってくれました。遠い異国で日本を想ってくれていたことを、とても嬉しく思いました。

(高三 白鳥 麗夏)

カナダ語学研修

初めての海外



私たち十名は三月十七日(土)～三十日(金)の二週間、カナダ語学研修に参加しました。私は初めての海外で緊張しながら現地に向かいました。最初は慣れない英語に戸惑いましたが、学校での授業やホストファミリーとの時間を過ごすにつれ、英語が聞き取りやすくなり、会話も楽しめるようになりました。

一番の思い出は、ホストファミリーとの時間です。家族が買い物やサイクリングに連れていってくれ、今まで学んできた英語を駆使しながら楽しく毎日を過ごすことができました。

この研修に参加して本当に良かったと心から思います。英語が得意な人だけではなく、初めて海外へ行く生徒も参加できる研修です。またカナダに戻れるように、日本で英語の勉強を頑張りたいと思います。

(高三 清水 知代)

人間関係ミーティング

社会、人とのつながり

四月十八日(水)に今年度最初の課題研究ミーティングが行われました。藤女子大学人間生活学部人間生活学科准教授の船木幸弘先生にお越し頂き、「人間関係という『見えない資産』を活かす」をテーマにお話を伺いました。

まず、私たちは知っている範囲の情報で考え、判断、行動しており、それらの行為には人間関係が影響していることを教えて下さいました。幸福な人につき合うと自分も幸福になるというデータもあり、他人との関わりによって自分も変わっていくことを感じました。

国際文化ミーティング

アフリカの現状を知る

五月二十三日(水)課題研究ミーティングは、北海道大学大学院メディア・コミュニケーション研究院の鍋島孝子先生にアフリカの人々の現状やアフリカの希望についてお話をいただきました。今のアフリカの子どもたちは貧困や労働で学校に行けないそうです。その他にも衛生問題、医療問題、農業問題、暴力も問題になっています。

私たちは、課題研究ミーティングの最後にこのようなアフリカの現状をどのように解決するかについてグループごとに話し合いました。私のグループは

また、船木先生は実際に藤女子大学の学生の方々も参加している東日本大震災の支援活動についてもお話し下さいました。学生を被災地まで送り届ける先生のように、支援者の奥に更に支援者がいることなど一つの活動から色々な人間関係に気づきました。また、被災地の方々が災害について発信したり、互いに物を分け合ったりなど市民による地域の運営も大事であると知りました。

今回のお話を通して、社会のコミュニケーションに参加し人と関わっていくことは周りの環境にとっても、自分にとっても大事なことであると感じました。

(高二 村越 真衣)

教育が問題だと考え、なぜそのような問題が起こるのかを考えたところ、学校に行く時間がない、お金や物が無い、先生がいないなどがありました。解決する方法として、NGO団体を立ち上げ、学校を建設すること、搾取されない状況の確立、先生を育てるプログラムの作成、教科書やノートなどの文具を送るなどがありました。

このように、アフリカの現状を知り、少しでも何ができるかを考えて行動することが大切だと思います。また、このような課題研究ミーティングなどの時間を通して色々な国について知ることが貴重で、将来に役立つと思えました。

(高一 小林恵里子)

寄宿舎 年に一度のお楽しみ

ジンギスカンパーティー



五月十六日(水)に寄宿舎でジンギスカンパーティーが行われました。皆この日を楽しみにしていたようで、ホームルームが終わると寄宿舎に戻り、準備をしていました。

私の学年は、自分たちの分を全て食べ終えると他学年の余ったお肉や野菜までもらい、終了ギリギリの時間まで食べていました。週末は同学年同士のテーブルですが、全員が集まることはなかなかないので学年の皆とも楽しい時間を過ごすことができました。また、担任や教科担任の先生方が来て下さり、普段はゆっくり話すことのできない学校や寄宿舎での様子を話しました。

短い時間でしたが、準備や片付けも皆で協力して行い、学年を超えて仲を深めることができました。

(高二 寒河江千歌)

受け継がれる心

五月二十九日(火)に聖心会アメリカ管区のシスタードナー・コリンズが来校され、全校でお話を伺いました。今年は聖フィリピン・ドゥシェーンが一八一八年に渡米してから二〇〇周年の記念すべき年です。彼女によって創立されたセントチャールズの聖心をはじめ、アメリカの聖心では二〇一七年から二〇一八年にかけて大きなお祝いがあります。

シスターのお話を伺い、聖フィリピン・ドゥシェーンがどれだけ多くの人々に愛をもつて接してきたかを知ることができ、心が温かくなりました。そして、彼女が強い信念と忍耐力を持って活動していたように、私たちも精進していきたいと思いました。

(高三 東 由理花・木村 京香)



炊事遠足



私たちは五月二十一日(月)に聖マгдаレナ・ソフィア・バラの祝日をお祝いし、炊事遠足に行つて参りました。それぞれが自分たちで計画し、用意した炊事を楽しみました。私のグループでは、みなで協力してピザやチャーハンを作り、おいしく食事ができました。途中、炭が足りなくなり他のグループから分けてもらうということもありました。ただ楽しむだけでなく、お互いに助け合い、協力することで成り立つことがあることを、この炊事遠足で改めて確認しました。この日だからではなく、いつでも分かち合うことを大切にし、自然に協力し合えるように生活していきたいです。

(高一 菅原 愛梨)

部活動紹介

S I A 部

S I A (Sacred Heart International Activities)部は「グローバルな視点でさまざまな社会問題を考え、ささやかでも自分たちにできることを実行していきたい」という思いから発足した部活動です。

自分たちのできることをとして、フェアトレード商品を使用したクッキーやカップケーキを手作り販売し、売り上げ金は毎年、認定NPO法人の「幼い難民を考える会」に寄付しています。

自分達の活動がいずれ世界への貢献につながるよう頑張りたいです。

(高三 須藤 琴音)

コーラス部

こんにちは、コーラス部です。コーラス部の主な活動内容はボイストレーニングとオープンスクールや聖ソフィア祭、クリスマスコンサートなどの学校行事での発表です。これらの舞台に向け、日々練習を重ねています。

私が目指しているのは、部員全員が心を合わせ一つの音楽を作ることです。一人では奏でられないハーモニーの美しさやその楽しさを感じて欲しいと思っています。

部員全員仲が良く、明るくて楽しい部活です！(高三 鈴木 夢)

テニス部

硬式テニス部は主に月・水・金曜日に活動をしています。活動は基礎体力づくりのための運動やテニスの基礎練習、サーブレシーブなどを中心に行っています。中学・高校からテニスを始めた人でも、練習を重ねることで段々と打てるようになってきています。また、札幌聖心ならではの豊かな自然環境の中で運動するので、とてもリフレッシュすることができます。

新入部員も加わり、さらに部が活発になりました。これからは次の大会で一回でも多く勝てるよう頑張りたいと思います。

(高三 石井 愛莉)



二〇一八年度入試合格大学一覧

この春卒業した五十回生三十一名と過年度卒業生の合格大学を次に掲載します。

(人数の記載のない大学は一名)

【聖心系】

聖心女子大学 (文学部) 十四名

【国公立大学】

横浜国立大学 (教育学部)

【道外大学】

上智大学 (総合グローバル学部)

(法学部)・(文学部)・(神学部)

中央大学 (法学部)

同志社大学 (文学部)

関西学院大学 (社会学部)

ノートルダム清心女子大学 (教育学部)

(人間生活学部)

玉川大学 (観光学部)

京都造形芸術大学 (芸術学部)

【道内私立大学】

北海道科学大学 (薬学部)

札幌国際大学 (人文学部) 二名

【道外短期大学】

鶴見大学短期大学部

(歯科衛生学科) 二名

【過年度生】

東京女子医科大学 (医学部)

国際医療福祉大学 (医学部)

岩手医科大学 (医学部)

天使大学 (看護学部)